

NHKのドラマ「ゲゲゲの女房」を途中から見て、原作を読みたくなくて早速買いに行った。

大学生のとき目黒の学生寮にいたころ下北沢の貸本屋で、白土三平の忍者武芸帳を借りてきて読んだ感動を思い出した。五十年前前のことである。

ゲゲゲの鬼太郎の作者水木しげるさんは貸本作家だったので下北沢の貸本屋にも作品が並んでいたことと思う。小学生の頃には少年クラブに連載されていた手塚治虫の鉄腕アトムに夢中だった。家には父親の代の少年倶楽部も置いてあって田河水泡のノラクロなども読んでいた。

六十代になった今でもマンガは手放せない。しかし、今の作家ものは苦手で前に出版されたもので、復刊されたものをよく読んでいる。

「ゲゲゲの女房」は貸本作家時代の苦勞、講談社など大出版社から認められ、テレビのアニメとしても登場する波乱の漫画家人生をつづった夫人の布枝さんの本です。貸本時代の苦勞話はその日の糧の為に必死に描き続ける水木さんが印象的です。

マンガの果たしてきた社会的な役割というか影響力は大変大きいと思う。手塚治虫の描いた鉄腕アトムの世界は子どもの頃は夢物語だった。今は人類の宇宙旅行がいつ実現するだ

ろうと考えている。想像力があの頃の世代に与えたものは大きいと思う。

水木さんの悪魔くん、鬼太郎、さまざまな妖怪は鉄腕アトムが外側のせかいを広げたのに対して、内側の心の世界を広げてくれたように思う。ドラマの原作には水木さんの愛読著がゲータテだったと書かれていた。水木さんのマンガの世界は世界的な作家の影響があったのかと思う。

テレビドラマの原案がマンガからというものが多くなっているという気がするのには私だけだろうか。

小説は文章を読んで、頭の中に自分でイメージ(絵)を作っていくかなければならない。映画は大勢の人が多額の費用をかけて作り上げる。マンガ家はほとんど一人でストーリーとイメージを作ってしまう。

水木さんは戦争で片腕を失った。身体を傾けながらペンを必死で走らせる姿をドラマで見ていると、おもわずこちらにも力が入ってしまった。こうして、水木さんをはじめとしたマンガ家が全身全霊を込めて描いたものを読んで、心の世界が形作られ、今私たちの世代がある。

たかがマンガ、されどマンガ。大人には分からない、子どもたちだけの楽しみがある。単にマンガだからと、切り捨てるのはもったいなさすぎないだろうか。



毎月第1日曜日は「家庭の日」
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。
青少年育成都留市民会議編集委員

連載・青少年健全育成シリーズ 第235回

マンガに思うこと

広報「つる」広告募集!

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか? 広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています(10,500部発行)ので、多くの方の目に触れます!

問合せ先: 行政管理課 秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額/枠	備考
裏面	カラー	20,000	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,000	2カ月掲載

掲載月は、①2・3月②4・5月③6・7月④8・9月⑤10・11月⑥12・1月の6パターンとなります。掲載状況につきましては、下記をご参考としてください。また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

旅のお手伝い 有限会社 宝観光バス

一般貸切旅客自動車運送事業
冠婚葬祭・送迎・旅行

小型バス/中型バス/大型バス
楽しいバスの旅は、緑ナンバーで
山梨県都留市大幡 4788
☎0554-43-8796



芭蕉目待ちの湯

味噌づくり体験と日帰り温泉がバックになったお得なプラン!!
お持ち帰り味噌 15kg 付!

3月12日(土)・13日(日)

味噌造り 温泉 バック

¥10,000 ※入浴は3名様までとなります。

(株)都留市観光振興公社
お申し込みは、2月26日(土)までにこちらへ ☎46-0753